

汚濁負荷量測定手法届出書

提出年月日を
記入する。

〇〇年〇〇月〇〇日

工場長等の代表権を有しない者が届出者となる場合、
代表者の委任状が必要。

豊田市長 様

住所 **名古屋市中区三の丸3丁目1-2**

届出者 氏名 **アイチ化学工業株式会社**

法人にあって **代表取締役 愛知太郎**
は代表者氏名

水質汚濁防止法第14条第3項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	アイチ化学工業株式会社 第一工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	豊田市〇〇町1-10	※受理年月日	年 月 日
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備考	<p>所定の用紙に記入する。</p>

- 備考
- △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - ※印の欄には、記載しないこと。
 - 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

測定場所ごとに記入する。

別紙

昭和 54 年環境庁告示第 20 号別記 1 の(1)～(4)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

昭和 54 年環境庁告示第 20 号別記 2 の(1)～(3)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

汚濁負荷量の測定手法

				指定項目の別	COD
1	特定排出水の区分	汚染状態	特定排出水の量	計測方法 その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項	
	A	1 (1)	2 (1)	別添 1-1	別図のとおり
	B	1 (1)	2 (1)	別添 1-2	別図のとおり
	C	1 (3)	2 (3)	別添 1-3	
	(D)	1 (3)	2 (1)	別添 1-4	別図のとおり
	(E)	1 (3)	2 (3)	別添 1-5	
	特定排水以外はカッコ書き				別図のとおり
2	特定排出水の区分	特定排水の 1 日当たりの汚濁負荷量の算定方法			
	A	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	B	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	C	手計算 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	(D)-(E)	手計算 $L_D - L_E = L$			
3	参考事項	(D)-(E)について：配管が埋設してあり、便所からの排水を直接計測することが、不可能である。			
		差し引き方式により算定する場合は、困難である根拠を記入する。			

別添として所定の用紙に記入する。

工場全体の配置図等を添付し、計測場所を明示する。

特定排水以外はカッコ書き

差し引き方式の時

備考 汚濁負荷量の測定手法の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。

測定場所ごとに記入する。

別紙

平成 13 年環境省告示第 77 号別記 1 の(1)～(4)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

平成 13 年環境省告示第 77 号別記 2 の(1)～(3)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

汚濁負荷量の測定手法

				指定項目の別	窒素含有量
1	特定排出水の区分	計測方法			計測場所
		汚染状態	特定排出水の量	その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項	
	A	1 (1)	2 (1)	別添 2-1	別図のとおり
	B	1 (1)	2 (1)	別添 2-2	
	C	1 (3)	2 (3)	別添 2-3	別図のとおり
	(D)	1 (3)	2 (1)	別添 2-4	
(E)	1 (3)	2 (3)	別添 2-5	別図のとおり	
	特定排出水以外はカッコ書き				別図のとおり
2	特定排出水の区分	特定排出水の 1 日当たりの汚濁負荷量の算定方法			
	A	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	B	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	C	手計算 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	(D)-(E)	手計算 $L_D - L_E = L$			
3	参考事項	(D)-(E)について：配管が埋設してあり、便所からの排水を直接計測することが、不可能である。			
		差し引き方式により算定する場合は、困難である根拠を記入する。			

別添として所定の用紙に記入する。

工場全体の配置図等を添付し、計測場所を明示する。

特定排出水以外はカッコ書き

差し引き方式の時

備考 汚濁負荷量の測定手法の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。

測定場所ごとに記入する。

別紙

平成 13 年環境省告示第 78 号別記 1 の(1)～(4)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

平成 13 年環境省告示第 78 号別記 2 の(1)～(3)の計測法のうち該当するものを番号で記入する。

汚濁負荷量の測定手法

				指定項目の別	りん含有量
1	特定排出水の区分	汚染状態	特定排出水の量	計測場所	
				計測方法	
	A	1 (1)	2 (1)	別添 3-1	別図のとおり
	B	1 (1)	2 (1)	別添 3-2	別図のとおり
	C	1 (3)	2 (3)	別添 3-3	別図のとおり
	(D)	1 (3)	2 (1)	別添 3-4	別図のとおり
	(E)	1 (3)	2 (3)	別添 3-5	別図のとおり
	特定排出水以外はカッコ書き				別図のとおり
2	特定排出水の区分	特定排出水の 1 日当たりの汚濁負荷量の算定方法			
	A	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	B	負荷量演算器 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	C	手計算 $C \cdot Q \times 10^{-3} = L$			
	(D)-(E)	手計算 $L_D - L_E = L$			
3	参考事項	(D)-(E)について：配管が埋設してあり、便所からの排水を直接計測することが、不可能である。			
		差し引き方式により算定する場合は、困難である根拠を記入する。			

別添として所定の用紙に記入する。

工場全体の配置図等を添付し、計測場所を明示する。

特定排出水以外はカッコ書き

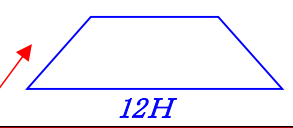
差し引き方式の時

備考 汚濁負荷量の測定手法の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。

別添 1-1

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

ただし書きの要件を適用する場合

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。		測定の対象に○をつける。			指定項目の別	COD
特定排出水の区分		A	○特定排水	・特定排水以外の排水	・排	出 水
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	COD計 (〇〇(株)製〇〇型)	COD計が最も相関が高いため		毎日	———	———
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	換算式 (注3)	換算式の根拠			備考
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	$Y = 0.98X + 2.51$	試料数 $n = 50$ 変動係数 $CV_x = 0.0346$ 期 間 13年Δ月Δ日~〇月〇日 相関係数 $r = 0.81$ 標準偏差 $CV_y = 0.0541$ $\sigma_x = 1.811$ $\sigma_y = 1.745$	合成ゴム排水で、活性汚泥処理したものであり、濃度変動はしない。		
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	パーシャルリューム式 (××(株)製××型)	開きよ、落差が小さい。		毎日	———	———
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	* 換算式 (注3)	* 換算式の根拠			備考
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	———	———			

排水変動パターンを記入する。

- 注 1 特定排出水の区分ごとに記入すること。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。

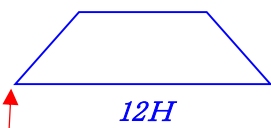
別添 2-1

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

ただし書きの要件を適用する場合

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

測定の対象に○をつける。

特定排出水の区分		A	・特定排水	・特定排水以外の排水	・排水	指定項目の別	窒素含有量
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	〇〇(株)製 〇〇型 (アルカリ性ペルオキソ二硫酸カリウム分解-紫外線吸光光度法)	当社の特定排水の計測に適合しているため。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準 (注3)				備考	
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	ゼロ校正液 ・計測回数: 5回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率: -5 ~ 5%	標準試料溶液 ・計測回数: 5回 ・計測値の平均値と標準試料溶液、濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]: 10% [mgN/L]	実試料 ・計測回数: 10回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率 (注4) [又は濃度差]: 10% [mgN/L]			
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	パーシャルリューム式 (××(株)製××型)	開きよ、落差が小さい。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	* 換算式 (注3)	* 換算式の根拠		備考		
13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	———	———					

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

排水変動パターンを記入する。

$$\text{誤差率 (\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$


別添 3-1

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

ただし書きの要件を適用する場合

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

測定の対象に○をつける。

特定排出水の区分		A	○特定排水	・特定排水以外の排水	・排出水	指定項目の別	りん含有量
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	〇〇製 〇〇型 (ペルオキソ二硫酸カリウム分解ーモリブデン青吸光度法)	当社の特定排水の計測に適合しているため。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準 (注3)				備考	
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	ゼロ校正液 ・計測回数： 5 回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： -5 ~ 5 %	標準試料溶液 ・計測回数： 5 回 ・計測値の平均値と標準試料溶液、濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： [10 mgP/L]	実試料 ・計測回数： 10 回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率 (注4) [又は濃度差]： [10 mgP/L]			
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	パーシャルリューム式 (××(株)製××型)	開きよ、落差が小さい。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式 (注3)	※ 換算式の根拠		備考		
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	———	———		 12H		

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

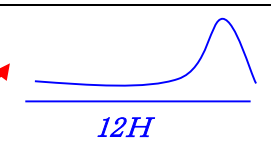
排水変動パターンを記入する。

$$\text{誤差率 (\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$

日平均排水量が 400m³/日以上の事業場で昭和 54 年環境庁告示第 20 号別記 1 (1)以外の計測法により計測する場合、同告示別記 1 (1) の計測法によることが技術的に適当でない等の根拠を記入する。

別添 1-3

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。		測定の対象に○をつける。			指定項目の別	COD
特定排水水の区分		C	○ 特定排水水	・ 特定排水水以外の排水水	・ 排水水	
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	指定計測法 (JIS法)	_____		1回/90日	県告示 別表(その1)-3 別表-3	小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	換算式 (注3)		換算式の根拠		備考
	〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇年〇〇月〇〇日	_____	試料数 n = 期 間 相関係数 r =	変動係数 標準偏差	CVx = CVy = σx = σy =	昭和 54 年環境庁告示第 20 号のただし書きの要件を適用する場合、昭和 55 年県告示第 623 号の別表中該当する番号を記入する。 小規模な生活排水 (間欠排水)。 水質汚濁防止法施行規則第 9 条の 2 第 1 項第 2 号のただし書きの要件を適用する場合、昭和 55 年県告示第 624 号の別表中該当する番号を記入する。
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	せき (JISK0102の3-2)	_____		1回/90日	県告示 別表(その2)-3	小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式 (注3)		※ 換算式の根拠		備考
	年 月 日 〇〇年〇〇月〇〇日	_____	_____	_____	_____	 12H

- 注 1 特定排水水の区分ごとに記入すること。
 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。

※ 用水の量を計測することにより、特定排水水の量又は特定排水水以外の排水水の量を計測する場合のみ記入。

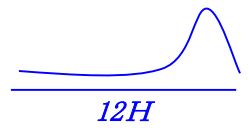
日平均排水量が 400m³/日以上³の事業場で平成 13 年環境省告示第 77 号別記 1 (1) 以外の計測法により計測する場合、同告示別記 1 (1) の計測法による⁴ことが技術的に適当でない等の根拠を記入する。

別添 2-3

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

測定の対象に○をつける。

特定排出水の区分		測定の対象に○をつける。			指定項目の別	窒素含有量
		C	○特定排水	・特定排水以外の排水	・排	出 水
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注 2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	指定計測法 (JIS 法)	_____		1回/90日	原告示 別表(その1)-3 別表-3	小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準 (注 3)				備考
	〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇年〇〇月〇〇日	ゼロ校正液	標準試料溶液	実試料	平成 13 年環境省告示第 77 号のただし書きの要件を適用する場合、平成 14 年県告示第 546 号の別表中該当する番号を記入する。	小規模な生活排水 (間欠排水)。
	・計測回数： 回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： %	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と標準試料溶液、濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： % [mgN/L]	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率 (注 4) [又は濃度差]： % [mgN/L]		水質汚濁防止法施行規則第 9 条の 2 第 1 項第 2 号のただし書きの要件を適用する場合、昭和 55 年県告示第 624 号の別表中該当する番号を記入する。	
量の計測方法	流量計等の種類 (注 2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	せき (JISK0102 の 3-2)	_____		1回/90日	原告示 別表(その2)-3	小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	* 換算式 (注 3)	* 換算式の根拠			備考
	年 月 日 〇〇年〇〇月〇〇日	_____	_____			

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

$$\text{誤差率 (\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$

排水変動パターンを記入する。


日平均排水量が 400m³/日以上 の事業場で平成 13 年環境省告示第 78 号別記 1 (1) 以外の計測法により計測する場合、同告示別記 1 (1) の計測法によることが技術的に適当でない等の根拠を記入する。

別添 3-3

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

測定の対象に○をつける。

特定排水の区分		C			○ 特定排水	・ 特定排水以外の排水	・ 排水	指定項目の別	りん含有量	
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件		困難であるとする根拠			
	指定計測法 (JIS法)	_____		1回/90日	県告示別表(その1)-3 別表-3		小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)			
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準 (注3)						備考		
	〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇年〇〇月〇〇日	ゼロ校正液	標準試料溶液	実試料			平成13年環境省告示第78号のただし書きの要件を適用する場合、平成14年県告示第547号の別表中該当する番号を記入する。			
	・計測回数： 回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： ~ %	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と標準試料溶液、濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： % [mgP/L]	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率 (注4) [又は濃度差]： % [mgP/L]			小規模な生活排水 (間欠排水)。 水質汚濁防止法施行規則第9条の2第1項第2号のただし書きの要件を適用する場合、昭和55年県告示第624号の別表中該当する番号を記入する。				
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件		困難であるとする根拠			
	せき (JISK0102の3-2)	_____		1回/90日	県告示別表(その2)-3		小規模な浄化槽排水のため (排水量 20m ³ /日)			
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式 (注3)	※ 換算式の根拠				備考			
	年 月 日 〇〇年〇〇月〇〇日	_____	_____				 12H 排水変動パターンを記入する。			

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

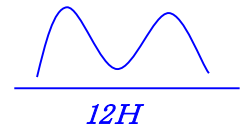
$$\text{誤差率 (\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$

昭和 54 年環境庁告示第 20 号（差し引き方式）の場合は、特定排水以外の排水又は、排水に○をつける。

別添 1-4

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

特定排水の区分		<i>D</i>	・特定排水	・特定排水以外の排水	・排出水	指定項目の別	COD
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類（注2）	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	<i>COD計 (〇〇(株)製〇〇型)</i>	<i>COD計が最も相関が高いため</i>		<i>毎日</i>	—	—	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	換算式（注3）		換算式の根拠		備考	
	<i>13年 Δ月ΔΔ日</i> <i>14年 X月XX日</i>	<i>Y=1.87X+2.51</i>		試料数 $n = 50$ 変動係数 $CV_x = 0.0419$ 期間 <i>13年Δ月Δ日~〇月〇日</i> $CV_y = 0.0499$ 相関係数 $r = 0.82$ 標準偏差 $\sigma_x = 0.0031$ $\sigma_y = 0.3385$		<i>間接冷却水、クーリングタワーのブロー水</i>	
量の計測方法	流量計等の種類（注2）	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	<i>電磁式流量計 (〇〇(株)製〇〇型)</i>	<i>暗きよ、満水型</i>		<i>毎日</i>	—	—	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式（注3）		※ 換算式の根拠		備考	
	<i>13年 Δ月ΔΔ日</i> <i>14年 X月XX日</i>	—		—		 <i>12H</i>	

排水変動パターンを記入する。

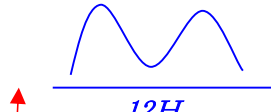
- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。
- 2 形状図、仕様書（又はカタログ）等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。

別添 2-4

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

平成 13 年環境省告示第 77 号（差し引き方式）
の場合は、特定排水以外の排水又は、
排水に○をつける。

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

特定排水の区分		D	・ 特定排水	・ 特定排水以外の排水	排水	指定項目の別	窒素含有量
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類（注 2）	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	〇〇(株)製 〇〇型 (アルカリ性ペルオキソ二硫酸カリウム分解-紫外線吸光度法)	当社の特定排水の計測に適合しているため。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準（注 3）			備考		
	〇〇年 〇〇月 〇〇日 〇〇年 〇〇月 〇〇日	ゼロ校正液 ・ 計測回数： 5 回 ・ 各計測値とその平均値との差の、 最大目盛値に対する比率： -5 ~ 5 %	標準試料溶液 ・ 計測回数： 5 回 ・ 計測値の平均値と標準試料溶液、 濃度との差の標準試料溶液濃度 に対する比率 [又は濃度差]： 10 % [mgN/L]	実試料 ・ 計測回数： 10 回 ・ 計測値の平均値と指定計測法 による測定値の平均値との誤 差率（注 4） [又は濃度差]： 10 % [mgN/L]			
量の計測方法	流量計等の種類（注 2）	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	電磁式流量計 (〇〇(株)製〇〇型)	暗きよ、満水型		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式（注 3）		※ 換算式の根拠		備考	
	13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	———		———			

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書（又はカタログ）等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

排水変動パターンを記入する。

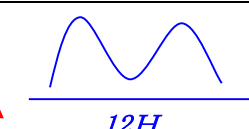
$$\text{誤差率 (\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$

別添 3-4

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

平成13年環境省告示第78号(差し引き方式)の場合は、特定排水以外の排水又は、排水に○をつける。

別紙の測定場所に対応した区分を記入する。

特定排水の区分		D	・特定排水	・特定排水以外の排水	排水	指定項目の別	りん含有量
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類(注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	〇〇(株)製 〇〇型 (ペルオキソ二硫酸カリウム分解一モリブデン青吸光光度法)	当社の特定排水の計測に適合しているため。		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準(注3)			備考		
	〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇年〇〇月〇〇日	ゼロ校正液 ・計測回数: 5回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率: -5 ~ 5 %	標準試料溶液 ・計測回数: 5回 ・計測値の平均値と標準試料溶液、濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率[又は濃度差]: 10 % [mgP/L]	実試料 ・計測回数: 10回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率(注4)[又は濃度差]: 10 % [mgP/L]			
量の計測方法	流量計等の種類(注2)	選定の根拠		計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	電磁式流量計 (〇〇(株)製〇〇型)	暗きよ、満水型		毎日	———	———	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式(注3)		※ 換算式の根拠		備考	
13年 Δ月 ΔΔ日 14年 ×月 ××日	———		———				

- 注 1 特定排水の区分ごとに記入すること。 ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。
- 2 形状図、仕様書(又はカタログ)等を添付すること。
- 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

排水変動パターンを記入する。

$$\text{誤差率}(\%) = \frac{[\text{自動計測器の計算値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法測定値の平均値}]} \times 100$$

別添

汚濁負荷量及び特定排出水等の量の補そく率

測定方式等について記入する。

計測場所	特定排出水等のCOD (mg/L)				特定排出水等の量 (m ³ /日)				補そく率(%)				特定排出水等の汚濁負荷量 (kg/日)				補そく率(%)				指定項目の別	COD						
																					備考							
A	5	0.			1	0	0	0.	6	6.	2					5	0	.0	0	6	8.	1					COD計 パージアルフリューム式	
B	4	0.			4	0	0	0.	2	6.	5					1	6	.0	0	2	1.	8					COD計 パージアルフリューム式	
C	7	0.					2	0.		1.	3						1	.4	0				1.	9			指定計測法 せき式	
(D)	7	0.					9	0.		6.	0						6	.3	0								COD計 電磁式流量計	
(E)	3	0.					8.										0	.2	4								指定計測法 せき式	
																	6	.0	6				8.	2			(D)-(E)の差し引き方式による算定	
合計							1	5	1	0.																		

(D)の内数となるため、合計に加えない。

別添

汚濁負荷量及び特定排出水等の量の補そく率

測定方式等について記入する。

計測場所	特定排出水等の窒素含有量 (mg/L)				特定排出水等の量 (m ³ /日)				補そく率(%)				特定排出水等の汚濁負荷量 (kg/日)				補そく率(%)				指定項目の別	窒素含有量	備考					
A			2	0.			1	0	0	0.	6	6.	2															全窒素計 パーソナルフロー式
B			2	0.			4	0	0.	2	6.	5															全窒素計 パーソナルフロー式	
C			4	0.					2	0.			1.	3											指定計測法 せき式			
(D)			4	0.					9	0.			6.	0											全窒素計 電磁式流量計			
(E)			1	0.					8.															指定計測法 せき式				
																									(D)-(E)の差し引き方式による算定			
合計							1	5	1	0.			100	0														

(D)の内数となるため、合計に加えない。

別添

汚濁負荷量及び特定排出水等の量の補そく率

測定方式等について記入する。

計測場所	特定排出水等のりん含有量 (mg/L)			特定排出水等の量 (m ³ /日)			補そく率(%)			特定排出水等の汚濁負荷量 (kg/日)			補そく率(%)			指定項目の別	りん含有量	備考		
A	0	9	0	1	0	0	0	0	0	6	6	.2	0	9	0	6	6	4	全りん計 パージアルフリューム式	
B	0	5	0	4	0	0	2	6	.5	0	2	0	1	4	7	全りん計 パージアルフリューム式				
C	4	0		2	0		1	.3		0	0	8	0	5	9	指定計測法 せき式				
(D)	2	0		9	0		6	.0		0	1	8				全りん計 電磁式流量計				
(E)	0	5	0	8						0	0	0	4			指定計測法 せき式				
										0	1	7	6	1	3	0	(D)-(E)の差し引き方式による算定			
合計				1	5	1	0			100	0	0		1	3	5	6	100	0	0

(D)の内数となるため、合計に加えない。